死亡届からみた滋賀県民の保健衛生学的研究

第2報 永源寺町・朽木町・信楽町・余呉村における 死因に関する分析

新 福 祐 子 *

Health and Hygienic Studies of the People in Shiga Prefecture Based upon Death Certificates Part 2. Analysis of Causes of Death

Yuuko SHIMPUKU, +

On the same four districts as in the first report, an analysis of the causes of death classified in 17 main sections (defined by WHO in 1957) has been made. The tabulated data are as follows: ranking of the leading causes of death, cause-specific death rates, cause-specific distribution of the deaths lumped every four years and age specific distribution of deaths by sexes. Furthermore, annual cause-specific distribution of deaths and agespecific distribution of deaths from the main causes are shown in graphs. These data have shown:

- 1) In each district the ranking of causes of death showed the typical farm village type up to 1940 before the War, particularly in Yogo-mura, but this type has gradually shifted to the standard one of Japan recently.
- 2) The causes of death the rate of which is decreasing are shown in Sections I, VIII, IX, X and XV.
- 3) VI is a section which shows the increasing distribution of deaths against the decreasing rate of death, excepting Eigenji-chō.
- 4) The causes of death the rate of which is increasing are shown in Sections II, VII and XVII, excepting Kutsuki-mura in II.
- 5) Each district has its own type in cause-specific and age-specific distributions of deaths in relation to its social environments and geographical conditions.

緒 言

第1報では、調査対象として滋賀県の県境の山間僻地にあたる東の永源寺町、西の朽木村、南の信楽町、北の余呉村を選んだ。長い年月の生活環境を通して町村民の健康管理がどのように行われているかをみるため、死亡届を分析することによ

って、4カ町村について死亡率・死亡年令・年令層別死亡状況・平均寿命などを比較検討した。

統計的にみると、大正から昭和の戦前にかけて経年的な社会環境の進展が町村民の健康状態に及ぼす影響は、閉鎖的な農山村のせいと全く一進一退のようにみえる。これが戦後昭和24・5年を境に、目にみえて好転していることが統計に現われ

* 岐阜大学医学部衛生学教室 (指導: 永田捷一教授)

+ Department of Hygiene, Faculty of Medicine, Gifu University (Director: Professor Shōichi Nagata)

た。

そこで昭和 9 年～24 年を昭和前半とし、昭和 25～40 年を昭和後半として分けて統計的な比較をした。これによると、その町(村)の健康や寿命の度合をはかる目安としては、死亡者の平均年齢、50 才以上の死亡者数の死亡者総数に対する割合、壮年(ここでは 45 才以上とした)以上の人口の全人口に対する割合、老年層(70 才以上とした)人口の全人口に対する割合、平均寿命(0 才の平均余命)が考えられるが、これらはどれをとってもほぼ同一の寿命順位を与えることが分った。ここで平均余命を 70 才とみて、それ以上になって死ぬ割合が多いことが長寿と考える場合はさておき、70 才以上の死亡者数の全死亡者に対する割合の多少でもって寿命の長短をみるのは、上記 50 才以上の死亡者割合でもってするよりは、平均死亡年齢との関係でみる限り、第 1 報表 26 のように信頼度は落ちるようである。そして昭和前半・後半を通じて、男女とも余呉村が一番寿命が長く、朽木村が短いという結果が出た。そのおもな原因は、朽木村においては 0～4 才の死亡が最近まで一向に減少しないこと、余呉村においては老人層の人数が厚いことに基づく。

この第 2 報では、上記の事実を念頭においてさらに死因別に統計的な分析を重ねて、それぞれの町村の環境との関連などを明らかにし、今後の健康管理の指針にしたい。

死因の分類は「国際疾病、傷害および死因統計分類¹⁾」をもとにして、17 項目の大分類によった。この第 2 報で用意した資料は、死因別にみた死亡者数多少の順位表(6 位まで)、全死亡者に対する各死亡者の割合図表、これを 4 年ごとに束にした百分率表、主要死因 10 項目についての死因別死亡率(10 万人対)、期間を戦前・戦中戦後混乱期・戦後の 3 期にわけた死因別年齢層別死亡割合の男女別表、および男女合計したその図、計 6 種類である。まず、順位表と死因別死亡割合について全体的な特徴を概観する。それから各論として、大分類 I から XVII までそれぞれの死因ごとに、経年的立場からと死亡者の年齢という立場からと、町村別・男女別に比較検討することによって

死亡原因について追求してみた。

この死亡原因の分析から、間接的に 4 カ町村の保健衛生的環境状況が把握できるであろう。またこの 4 カ町村を通して、農山村における人口構成による寿命の変化や社会環境の変化も理解することができよう。近年における科学療法の進歩や外科技術の発達、食生活の改善などによって、死亡率は全国的に減少してきているが、このようないきようをうけながら、僻地的存在であるこの 4 カ町村がどのように推移してきたか、往年の実態と比較し今後の問題点をみつけることが本研究の目的である。

概 観

どの町村にはどのような死因が多いかをみる方法として、町村ごとに死亡者の多い順に大分類 17 項目について 6 位まで順位をつけた。

表 1 の永源寺町においては、昭和 3 年の 1 位は分類 IX の消化器の疾患で、2 位は分類 XV の新生児主要疾患、3 位は分類 XVI の老衰、4 位は分類 I の伝染病および寄生虫病で、5 位は分類 VI の神経系および感覚器の疾患と分類 VIII の呼吸器系の疾患となっている。この表を上から順に年代的变化をみると、大分類 IX が昭和 27 年ごろまで 1 位の年が多い。それでもこの永源寺町は、他の町村に比べるとあまり順位の固定化はない。昭和 31 年に分類 VI が 1 位に進出したのに対して、分類 I と XV が昭和 27 年ではほぼ完全に姿を消し、このころから分類 VIII も 6 位以内にはいるのがまばらになったことは大きな変化である。これと入れかわりに分類 II と VII、XVII の進出があり、これは全国的傾向とはいえ、このような農山村にまで現代病のいきようが押しよせてきていることを如実に物語っている。

表 2 の朽木村では、昭和 23 年ごろまで分類 IX が 1 位をほぼ独占して農村型を表わしている。この消化器系疾患は、労働のためのエネルギーをでん粉に依存していたための大食と粗食によるものである。一方分類 XVI が昭和 21 年ごろから 1 位を占めるようになって昭和 37 年まで続くが、これはこの村の特徴で他町村にはそれ程明確にはでない。また、分類 I と XV が昭和 40 年まで 6 立

表 1 死亡順位表（永源寺町）

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	XV	XVI	XVII
1	4					5		5	1						2	3	
2	2							4	3	6					1	5	
3	3					5		2	6						1	4	
4	1					6		4	3						5	2	
5	4					6		4	2						3	1	
6	4							4	2	6					1	3	
7	4					6		5	1						2	3	
8	4							5	4						2	1	
9	3					6		6	1						3	2	
10	3					4		5	2	6					3	1	6
11	5							4	1						5	2	
12	4					6		3	2						3	1	
13	3					5		5	1						4	2	
14	3					5		4	2						6	4	
15	3					3		4	1						5	6	
16	1					2		3	1						6	3	
17	3					3		5	1	6					3	2	
18	1					5		4	1						2	6	
19	2					3		5	4						5	6	
20	3					3		5	4	6					2	6	
21	1					4		2	1						5	6	
22	2					5		4	1						6	3	
23	2					1		6	2						3	4	
24	5	6				6		4	1						2	5	
25	3		6			2	6	1	1						5	4	
26	3			6		5		3	1						2	2	
27		4	6			2		5	3						1	5	
28		4				3		2	2						6	1	
29		4				2	5	6	6						1	5	
30		3				1	5	5	5						1	4	
31		3				6	2	2	4						2	4	
32		4				2		3	3						1	6	
33	5	4				1	3	6	6						2	5	
34		4				1	2								4	4	
35		2				1		6	3						2	4	
36		2				2		1	4						3	6	
37		4				1	2	6	5						5	6	
38		3				1	4	3	3						6		
39		2				1	2	5	3						6		
40		4				1	2	5	3						6		

表 2 死亡順位表（朽木村）

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	XV	XVI	XVII
1	4					5		2	1						2	3	6
2	3		6			4	6	6	2	6					3	4	
3	2					6			1						4	1	
4	3					5			1						4	3	
5	5					3			1						2	2	
6	3					6			1						4	4	
7	3					1			2						5	6	
8	3		6			5			1						4	4	
9	1		5			4			1						3	5	
10	3					1			4						5	6	
11	4	6				2			1						6	5	
12	4					3			1						5	5	
13	2		6			2			1						4	4	
14	2					6			1						3	3	
15	5					4			2						3	1	
16	4					2			1						6	5	
17	2					4			1						4	1	
18	3					5			1						4	4	
19	2	5	5			2			1						5	2	
20	4					5			1						5	2	
21	3					6	6		2						1	3	
22	2					6			2						2	1	
23	5					5			1						2	3	
24	4					5			2						1	1	
25						3	5		2						5	1	
26						3	4		5						5	1	6
27						5	5		5						4	3	
28	5					2	5		1						3	1	
29	6		6			5			4						1	1	
30	3	5							6						1	1	
31		6							3						1	1	
32	6		2						4						6	5	
33	5								2						1	1	
34	3		5						4						5	4	
35									5						4	2	
36	6	5							5						6	6	
37		4							3	6					2	1	
38		3							6						5	6	
39	6								1						3	2	
40		4							4						2	6	

表 3 死亡順位表（信楽町）

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	XV	XVI	XVII
10	3					5		2	1						4	6	
11	3					4		2	1						6	5	
12	3					6		2	1						4	5	
13	3					5		2	1						4	6	
14	1					5		2	2						4		
15	3					5		4	1						6	2	
16	1					4		2	3						5	6	
17	2					4		3	1						6	4	
18	2					5	1	3	1							4	
19	2						5	3	1						6	4	
20	1		5			6		3	1							4	
21	2		4			6		3	1							5	
22	2					4		3	1						6	5	
23	2					6		4	1						3	5	
24	2					4		3	1						6	5	
25	5					2	5	2	1						4		
26	4					3	5		1						2	5	
27	5					3		4	1						6	2	
28						4		6	2						4	3	1
29	4					2	4	3	1						4		
30		6				3		4	1						5	2	
31		4				1	5		1						3	6	
32		5				3	6	4	2						1		
33		1				2	5	5	3						4		
34		4				1	5		3						2	6	
35		4				3	2	6	5						1		
36		3				2	4	5							1	6	
37		4				1	3		6						2	5	
38		2				1	5		4						3	5	
39	6	1				2	4		5						3		
40		3				2	3	5							1	6	

内に存在するものこの村の特徴である。それに分類Ⅱの進出がおそいとか、分類Ⅲがたびたび6位以内にはいつていることも他町村と異なる。

表3の信楽町では、分類Ⅸの1位が昭和31年までつづき、次の余呉村について著るしい。昭和24・5年まで2・3位を分類ⅠとⅧが独占していたのはこの町だけである。昭和30年ごろから、分類Ⅰ・ⅩⅤが6位以下になったのに入れかわり、分類Ⅱ・Ⅶ・ⅩⅦが6位以内にはいつてきている点は他の町村と同じである。昭和30年以後の順位はあまり固定化していない。この町は昭和28年に台風による山津波があり、その時の多数の死亡者のため分類ⅩⅦが1位になった。

表4の余呉村の順位は、大正4年から昭和27年まで分類Ⅸの消化器系疾患が1位を独占している。これは4カ町村中一番顕著で、この村の特徴ということができる。それ以後1位は分類Ⅵの神経系および感覚器の疾患に移り、割合動揺の少ない順位を示しているが、これは交通の不便さによる生活環境の推移の緩慢なことによるものと考え

られる。他の町村にみられない特徴としては、この他に分類Ⅹの性尿器系の疾患による死亡が戦前ときどき5・6位を占めたこと、分類Ⅶによる死亡者が戦前から比較的多かったこと、分類ⅩⅤがまばらにしか6位以内にはいつていないことである。

表5は、比較のため国勢調査の結果から出された全国の死因の順位表で、5位までのせた。

次の図1から図8までは死亡者を男女別にし、死因別に経年的傾向をみるために作成したものである。

各年の死因別死亡者数 ÷ 各年の死亡者数 × 100 で示したもので、1点1%の割合になっている。まずこれらの図表から共通していえることは、時代と共に死亡者の割合が著しく減少している死因は、分類Ⅰ伝染病および寄生虫病、Ⅷ呼吸器系の疾患、Ⅸ消化器系疾患およびⅩⅤ新生児主要疾患であり、増加しているのは、Ⅱ新生物、Ⅵ神経系および感覚器の疾患およびⅩⅦの不慮の事故・中毒および暴力である。分類ⅩⅦにおいては男

表 4 死亡順位表(余呉村)

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	XV	XVI	XVII
4						3	4	2	1	1						5	6
5	2					4	5	2	1	1						6	
6	3					4		2	2	1							
7	3					4	5	1	2	1					5		6
8	4					3		2	1	2						4	
9	4					5		1	2	1	6					6	
10	6					3		2	1	2					3	4	
11	6					2	5	5	1	1					6	4	
12	4					3	6	2	1	1	6				3	6	
13	4					2		4	1	1	5				5	6	
14	3					2		2	1	1					5	6	
15	6					3		2	1	1					6	3	
16	4					3		2	1	1	6				3	5	
17	6					4		2	1	1					6	5	
18	2					3		2	1	1	6				6	5	
19	4					4		2	1	1						5	
20	3					3		3	1	1	6					5	
21	2					6		3	2	1	5					3	
22	3					2		2	1	1	4				6		
23	5					4		2	1	1							
24	6					3		2	1	1							
25	4					5		2	1	1							
26	3					6		5	1	1							
27	3					2		4	2	1							
28	4					3		6	1	1							
29	4					4		4	3	3							
30	5					2		6	1	3							
31						1		1	3	4							
32						2		3	5	3							
33						1		2	3	3							
34						1		2	3	3							
35						1		2	3	5							
36						1		3	3	5							
37						2		1	4	5							
38						2		1	3	5							
39						2		3	2	3							
40						1		4	4	5							

表 5 全国の死亡順位表

[illegible]

図 1 死亡者の経年的死因別分布（永源寺町 男） 1 点 1 %

図 2 死亡者の経年的死因別分布（永源寺町 女）

図 3 死亡者の経年的死因別分布（朽木村 男）

図 4 死亡者の経年的死因別分布（朽木村 女）

図 5 死亡者の経年的死因別分布 (信楽町 男)

図 6 死亡者の経年的死因別分布 (信楽町 女)

図 7 死亡者の経年的死因別分布 (余呉村 男)

図 8 死亡者の経年的死因別分布 (余呉村 女)

の方の率が女よりも多い。分類Ⅹ泌尿器系疾患はわずかに減少を示しており、Ⅲアレルギー性疾患・内分泌系の疾患・物質代謝および栄養の疾患は増加でも減少でもないというべきであろう。分類ⅩⅥ老衰および診断名不明確は、永源寺・余呉村は増減いずれとも判断しにくい、あとの2町村は増加を示している。なお分類Ⅰの結核においては、昭和16年から25年のころ特に男に多いということが信楽町・余呉村に明瞭に出ており、永源寺町もわずかに出ている。

つぎに、この図表からわかる各町村特有点をあげると、永源寺町では分類Ⅷの呼吸器系の疾患が昭和前半から男女とも、なかでも女は10%以下と少ない。一方男の分類ⅩⅤ新生児主要疾患が特に昭和初期に20%以上とひとかったのが目立つ。最近分類Ⅵ神経系および感覚器の疾患が急にふえてきたようで、これは他の町村よりも著しい。朽木村では、この百分率分布は経年的にみて、むらがあるようで、特に女に著しい。分類Ⅸ消化器系疾患が20%台を割るのに、他の町村では昭和30年を過ぎなければならなかったのに、この村では男で昭和24年ごろ、女では昭和17年で20%を割っている点は注目すべき点と思われる。この代わりに分類ⅩⅥ老衰および診断名不明確がふえていったと思われる。この村の弱点は第1報でも指摘したように、分類ⅩⅤ新生児主要疾患が一向に減らないことである。また、分類Ⅲ物質代謝および栄養の疾患が昭和初期から男女とも他の町村に比べて多いようである。信楽町と余呉村は特に朽木村と対照的に、分類Ⅸ消化器疾患が20%を割るのに一番おそかったということ、分類Ⅷ呼吸器系の疾患が昭和前半は多かったということ、分類Ⅱ新生物の増加が著しいという点で似ている。なお、信楽町は昭和前半に分類Ⅰ結核が、また余呉村は前後半を通じて分類Ⅹ泌尿器系の疾患が他の町村に比べて多いようである。

以上のことは、他の表においても確認されるであろうし、以下の詳細な分析の際により指針となるはずである。以下、各死因別に論ずる。

調査成績ならびに考按

Ⅰ 伝染病と寄生虫病

この死因による死亡率（分類Ⅰによる死亡者数÷本籍人口×10万）は、表6のとおりである。

表 6 死因別死亡率（Ⅰ 伝染病および寄生虫病）

$\frac{\text{Ⅰによる死亡者数}}{\text{本籍人口}} \times 10\text{万}$

	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4				62.9
5				110.4
6				245.7
7				322.3
8				136.0
9				123.5
10				86.0
11				97.4
12				171.0
13				192.9
14		192.1		204.0
昭和 1		76.6		106.5
2		207.9		152.7
3	133.3	287.1		208.1
4	158.2	267.0		315.6
5	183.5	209.5		197.6
6	234.0	226.2		172.9
7	146.1	260.9		205.7
8	188.5	261.0		160.1
9	212.7	222.9		250.2
10	191.8	128.7	247.8	204.1
11	166.2	199.6	290.3	226.2
12	174.2	144.6	249.2	236.2
13	207.7	180.2	235.0	123.1
14	166.9	271.3	369.6	224.7
15	240.4	217.7	183.7	213.1
16	338.6	144.9	283.3	203.1
17	?	?	?	?
18	?	?	?	?
19	?	?	?	?
20	?	?	?	?
21	?	?	?	?
22	?	?	?	?
23	177.8	108.0	?	178.0
24	159.7	161.0	?	207.9
25	110.8	86.8	?	108.9
26	125.4	103.0	?	118.2
27	70.8	133.8	59.3	96.7
28	31.3	49.8	70.1	63.9
29	70.2	49.0	75.7	74.4
30	37.8	44.9	51.9	52.8
31	38.4	15.0	46.1	52.8
32	53.6	50.2	36.4	52.8
33	76.6	16.7	48.3	63.0
34	46.2	100.2	54.4	21.1
35	38.7	116.8	18.2	42.0
36	31.1	16.7	72.9	21.1
37	31.2	33.4	36.7	42.4
38	31.3	16.7	18.3	21.4
39	57.1	50.3	42.9	32.1
40	54.9	50.5	24.4	21.5
昭10~16 の平均 標準偏差	212.3 57.1	183.9 46.5	265.6 53.4	204.4 35.0
昭27~40 の平均 標準偏差	47.8 15.6	53.1 36.6	46.8 18.2	47.0 22.0

本籍人口では男女別人口がわからないので、男女合計したものについて、資料のえられた年だけとりあげた。表の下欄には、4カ町村共資料がそろった昭和10年～16年と昭和27年～40年について平均と標準偏差を出してある。この平均をみると昭和10年～16年の間では、各町村間の差は少ない。これは昭和27年～40年の間についても同様であるが、この両者戦前・戦後を比べると、非常に

差があり1/5程に減少している。朽木村の減少がにぶいのと、戦後の標準偏差が大きいのが示すように、朽木村のこの死亡には、年によって大きなむらがあるのが注目すべき点である。なお、どの町村についても昭和26年を境に、3桁の数が半以下に減るといことが顕著に現われている。

表7は、先に示した図1～図8を見やすくするために4年ごとにまとめたもので、男女別に分類Iによる死亡者数÷死亡者総数×100を表わしたものである。この表にも、昭和25～40年は昭和9～24年に比べて減少していることが現われておりまた男は女よりも死亡割合が高い。

年令層別にみると、この死因の中でも一番多いのが結核であることから、15才～29才ごろが高率である。いま、年令層別に死亡状況をみるのに期間を大別して、昭和元年から15年までと、戦中戦後混乱期として昭和16年から24年まで、昭和25年から40年までの3つに分けて検討することにした。これが表8である。昭和25年以後、この死因による死亡者は減少したとはいえ、やはり1～4才と、20才前後のピークが残っていることは次の図9でもわかる。これは青年期における試練とも

図9 I (伝染病および寄生虫病)の年令層別死亡の割合

表7 I (伝染病および寄生虫病)の死亡の割合 $\frac{\text{Iによる死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$

	男				女			
	永源寺	朽木村	信楽町	余呉村	永源寺	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4～6				7.1				14.6
7～10				9.8				10.4
11～14		11.4		10.5		9.1		9.6
昭和 1～4	18.4	11.7		14.8	10.9	8.6		10.1
5～8	18.0	11.0		9.4	13.5	12.3		10.3
9～12	13.5	10.1	15.2	11.3	12.8	7.8	13.3	13.2
13～16	15.8	14.2	16.5	12.1	12.5	8.7	15.3	9.7
17～20	21.0	13.5	20.4	14.7	14.3	9.8	18.1	12.7
21～24	18.0	11.0	18.4	15.1	13.4	10.6	15.8	10.6
25～28	7.6	6.5	11.3	7.9	8.2	8.1	5.3	9.6
29～32	7.7	2.7	8.3	8.3	3.8	5.4	4.7	5.4
33～36	5.2	6.7	4.6	5.1	5.7	5.9	6.1	2.2
37～40	5.7	5.3	5.1	4.9	5.6	4.5	2.4	2.2
昭9～24 の平均	17.1	12.2	17.5	13.3	13.3	9.2	15.6	11.6
標準偏差	5.0	1.7	2.0	1.6	0.7	1.1	1.7	1.5
昭25～40 の平均	6.6	5.3	7.3	6.6	5.8	6.0	4.6	4.9
標準偏差	1.1	1.6	2.7	1.6	1.6	1.3	1.4	3.0

表 8 I (伝染病および寄生虫病) の年令層別死亡の割合

$$\frac{\text{その年令層のIの死亡者数}}{\text{Iによる死亡者数}} \times 100$$

性別	町村名	年代	年 令 層 別															
			0 才	1 才	5 才	10 才	15 才	20 才	25 才	30 才	35 才	40 才	45 才	50 才	55 才	60 才	65 才	70 才以上
男	永源寺町	昭3~15	7.6	11.7	4.1	2.1	11.0	22.0	15.2	5.5	6.9	2.8	1.4	4.1	2.1	0	1.4	2.1
		16~24	4.7	10.1	4.1	3.5	7.1	15.4	10.6	11.2	5.9	5.3	4.1	4.7	4.1	4.1	3.0	1.8
		25~40	1.6	4.7	1.6	1.6	1.6	0	10.9	6.3	9.4	7.8	7.8	6.3	18.8	6.3	6.3	9.4
	朽木村	大4~15	6.1	9.1	5.0	4.0	11.1	16.2	14.1	8.1	6.1	3.0	2.0	5.0	3.0	1.0	0	6.1
		16~24	6.4	8.1	6.4	3.2	9.6	9.6	17.7	8.1	8.1	3.2	4.8	9.6	0	3.2	1.6	0
		25~40	3.8	3.8	0	0	0	11.1	11.1	7.6	3.8	0	0	3.8	15.3	7.6	0	30.7
	信楽町	昭10~15	2.9	13.1	5.1	0.7	9.5	19.3	13.9	4.4	9.5	7.3	4.4	5.8	3.7	1.5	2.9	0
		16~24	3.3	10.7	4.5	2.1	7.4	11.5	12.7	8.8	8.6	8.6	2.5	4.1	5.3	5.3	2.1	3.3
		25~40	2.2	5.4	1.1	2.2	0	8.6	9.7	7.5	8.6	9.7	6.5	7.5	5.4	11.8	7.5	6.5
	余呉村	大4~14	13.5	11.5	5.8	7.7	21.1	13.5	11.5	11.5	3.8	0	0	0	0	0	0	0
		昭1~15	7.0	7.8	7.0	2.3	9.4	12.5	18.8	6.3	4.7	5.5	7.0	3.1	4.7	1.6	0.8	3.1
		16~24	4.6	12.0	2.8	0.9	7.4	14.8	13.0	11.1	5.6	5.6	6.5	5.6	3.7	2.8	0.9	2.8
女	永源寺町	昭3~15	3.6	11.4	5.7	4.3	17.1	10.0	17.9	4.3	8.6	3.6	2.1	3.6	2.9	0.7	2.9	1.4
		16~24	5.5	7.8	4.7	3.1	11.7	21.9	13.3	5.5	6.3	1.6	0.8	2.3	6.3	4.7	1.6	3.1
		25~40	5.8	11.5	0	3.8	7.7	1.9	13.5	7.7	5.8	7.7	9.6	7.7	1.9	3.8	1.9	9.6
	朽木村	大4~15	4.9	6.1	3.7	7.3	17.1	12.2	3.7	7.3	8.5	8.5	4.9	4.9	3.7	2.4	3.7	1.2
		16~24	4.3	6.5	4.3	2.2	6.5	19.6	13.0	15.2	8.7	0	4.3	0	4.3	2.2	0	8.7
		25~40	3.8	14.3	7.1	3.6	3.6	3.6	7.1	14.3	10.7	7.1	3.6	0	10.7	3.6	3.6	10.7
	信楽町	昭10~15	7.1	9.1	9.1	8.1	16.2	15.2	9.1	9.1	7.1	1.0	0	4.0	2.0	2.0	1.0	0
		16~24	6.0	9.0	4.0	2.0	12.5	14.4	14.9	11.9	6.0	4.0	3.5	4.0	2.5	1.5	2.5	1.5
		25~40	3.8	5.7	1.9	0	3.8	13.2	11.3	17.0	7.6	11.3	5.7	1.9	1.9	5.7	3.8	5.7
	余呉村	大4~14	8.8	8.8	7.7	3.3	24.2	11.0	14.3	4.4	4.4	6.6	1.1	3.3	1.1	0	0	1.1
		昭1~15	7.3	8.1	5.1	2.9	22.1	20.6	14.0	6.6	5.1	2.2	1.5	2.2	1.5	0.7	0	0
		16~24	6.5	10.4	5.2	5.2	7.8	19.5	14.3	9.1	9.8	1.3	3.9	3.9	1.3	0	1.3	2.6
		25~40	2.9	8.6	2.9	2.9	5.7	8.6	11.4	11.4	11.4	5.7	11.4	8.6	2.9	2.9	0	2.9

いうべきものであろう。

図9は表8を時代によって3つに分類して作成したものである。時代が古い程、町村間の分布差はなかったが、戦後は町村によって分布傾向が、それぞれちがってきている。昭和25年以降40才以上の年令層の率が高くなっているが、死亡者数で見るとほぼ横ばいである。

II 新 生 物

表9は新生物による死亡率である。昭和10年から16年までの平均と、昭和27年から昭和40年までの平均を比べると、朽木村を除いて他の3カ町村

は2倍前後に増加している。朽木村が絶対数において増加せず、昭和後半に他の3カ町村に比べて死亡率が半分であることは特徴といえよう。しかし相対的には、表10からもわかるようにわずかの増加を示している。

表10は、4年ごとにまとめた全死亡者に対する新生物死亡者の割合表である。これによれば、昭和9年から昭和24年までと昭和25年から昭和40年までとを各町村ごとに比較してみると、ほぼ3倍以上の増加であるが、朽木村だけは増加のしかたは緩慢である。

この分類IIによる死亡の年令層別状況を表11か

表 9 死因別死亡率（Ⅱ新生物）

$$\frac{\text{Ⅱによる死亡者数}}{\text{本籍人口}} \times 10\text{万}$$

	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4				25.0
5				0
6	資料なし	資料なし	資料なし	24.6
7				37.2
8				0
9				24.7
10				12.3
11				36.5
12				61.1
13				24.1
14		38.4		36.0
昭和 1		57.4		35.5
2		0		70.5
3		153.1		57.8
4	17.8	57.2		93.5
5	17.6	39.1		69.7
6	26.2	56.5		34.6
7	43.3	18.6		57.1
8	25.8	111.8		102.9
9	25.7	130.0		56.9
10	34.0	55.1	39.1	113.4
11	16.7	54.4	25.8	67.9
12	24.9	54.2	76.7	56.2
13	58.1	36.0	63.5	67.1
14	108.0	108.5	57.4	56.2
15	25.0	72.6	50.7	67.3
16	66.3	144.9	62.9	45.1
17	24.8	?	?	?
18	?	?	?	?
19	?	?	?	?
20	?	?	?	?
21	?	?	?	?
22	?	?	?	?
23	64.7	90.0	?	44.5
24	87.8	0	?	76.6
25	55.4	52.1	?	54.5
26	54.9	85.9	?	64.5
27	110.1	16.7	53.3	96.7
28	94.0	16.6	81.8	127.9
29	101.3	49.0	75.7	85.0
30	83.3	89.8	57.7	52.8
31	122.8	44.9	103.6	169.0
32	107.1	33.4	84.9	105.5
33	99.6	50.1	120.7	115.5
34	115.6	33.4	120.8	94.8
35	93.0	66.7	121.0	126.1
36	101.0	83.6	109.3	179.3
37	54.6	100.3	97.8	158.8
38	117.3	83.7	134.2	74.8
39	163.1	33.5	177.9	160.6
40	86.3	84.2	85.5	118.1
昭和 10~16 の平均 標準偏差	46.3 30.7	75.1 35.4	53.7 15.7	67.6 20.2
昭和 27~40 の平均 標準偏差	103.5 23.4	56.1 27.2	101.7 31.6	118.9 36.2

らみると、これは高年齢層の成人病ということがよくでており、昭和25年以後にはどの町村も70才以上が高率になっているところから、時代が進み老年層人口が増えるに従って、この死因による死亡者がふえ、老年層病となる色彩が濃い。

これを男女合計して、図10にグラフにしてみたが、朽木村では全期間を通じて55~59才のところにピークがある。余呉村では表10の割合においてもまた、実数においても全期間通じて150人:180人と男女差が大きい。朽木村も同様で、60人:81人である。

Ⅲ アレルギー性疾患、内分泌の疾患、物質代謝および栄養の疾患

この分類項目に入るアレルギー性疾患とか、甲状腺患・ビタミン欠乏症などによる死亡者数は他の死因に比べて少なく、それと死亡者総数との割合は表12の通りである。昭和21年~24年代において余呉村の女以外は高率であるのは、戦争後の食糧不足からきたものである。昭和9年~24年の平均と昭和25年~40年の平均をみる時、朽木村は男女とも高く、余呉村は男女とも低く出ている。この死因については死亡者数が少ないので他の統計表は割愛した。その他分類Ⅳ・Ⅴ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ・Ⅼ・Ⅽ・Ⅾについても詳しい統計分析は省略した。

Ⅳ 血液および造血器の疾患

表13のとおりこれによる死亡者はごく少なく、4年間に1人いるかないかの程度である。昭和前半・後半の差もめだたないし、男女別・町村別

図 10 Ⅱ（新生物）の年齢層別死亡の割合図

表 10 II (新生物)による死亡の割合
 $\frac{\text{IIによる死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$

	男		女	
	永源寺町	朽木村 信楽町 餘村	永源寺町 朽木村 信楽町 餘村	
大正 4~6		0		2.2
7~10		0.9		1.4
11~14		1.4	3.6	3.0
昭和 1~4	1.0	4.1	2.2	3.7
5~8	2.6	2.5	2.3	4.6
9~12	1.5	2.6	3.4	3.7
13~16	3.3	3.2	3.4	4.5
17~20	4.1	2.0	2.3	2.4
21~24	3.1	3.6	5.8	2.2
25~28	8.6	4.8	6.0	7.4
29~32	10.6	10.3	13.7	9.8
33~36	11.1	11.6	11.9	14.3
37~40	14.6	16.2	12.2	14.5
昭和 9~24 4平均	3.0	2.9	3.7	3.3
標準偏差	0.9	1.4	1.3	1.0
昭和 25~40 の平均	11.2	10.8	11.0	11.5
標準偏差	2.2	4.1	2.9	3.0

表 11 II (新生物)の年齢層別死亡の割合
 $\frac{\text{その年齢層のIIの死亡者数}}{\text{IIによる死亡者数}} \times 100$

性別	年代	年 令 層 別															
		0	1	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70
男	昭和 3~15	0	0	0	0	0	4.2	0	0	4.2	16.7	4.2	16.7	0	20.8	12.5	20.8
	16~24	3.0	0	0	0	0	0	0	0	3.0	6.1	15.2	15.2	27.3	12.1	18.2	
	25~40	0	0.9	0	0.9	0	2.8	0.9	2.8	3.7	0.9	9.2	9.2	14.7	16.5	36.7	
	大正 4~6	0	0	0	0	0	0	0	0	16.7	4.2	20.8	20.8	12.5	12.5		
	16~24	0	0	0	0	0	0	0	0	5.9	11.8	5.9	17.6	35.3	17.6	5.9	0
	25~40	0	0	0	0	0	0	0	0	4.0	8.0	0	8.0	20.0	20.0	4.0	36.0
	昭和 10~15	0	0	0	0	0	3.8	0	0	3.8	0	7.7	15.4	7.7	23.1	15.4	23.1
	16~24	0	2.5	0	0	0	2.5	0	0	2.5	12.5	12.5	12.5	17.5	17.5	20.0	
	25~40	0.8	1.6	0	0	0	2.4	0	2.4	4.0	4.0	12.7	10.4	13.6	15.2	32.8	
	大正 4~14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20.0	0	80.0
女	昭和 1~15	0	0	0	0	0	2.7	2.7	0	13.5	10.8	21.6	10.8	8.1	29.7		
	16~24	0	0	0	0	4.0	0	0	8.0	8.0	8.0	12.0	20.0	16.0	16.0		
	25~40	0	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	0	2.3	1.2	6.0	6.0	14.5	19.3	16.9	27.7	
	昭和 3~15	0	0	0	2.9	0	0	0	2.9	5.7	11.4	8.6	22.9	25.7	5.7	14.3	
	16~24	0	0	0	0	0	0	0	3.1	9.4	3.1	18.7	12.5	18.7	18.7	15.6	
	25~40	0	0	0	1.1	0	0	3.2	1.1	7.5	8.6	11.8	12.9	8.6	17.2	26.9	
	大正 4~14	0	0	0	0	0	0	0	6.2	6.2	3.1	21.9	21.9	9.4	15.6	15.6	
	16~24	0	0	0	5.6	0	5.6	16.7	0	22.2	0	27.8	5.6	5.6	5.6		
	25~40	0	0	0	3.2	0	6.5	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	19.4	6.5	26.8	26.8	
	昭和 10~15	0	0	0	0	0	0	0	13.1	8.7	4.3	4.3	13.1	21.8	21.8	13.0	
	16~24	0	0	0	2.2	2.2	2.2	2.2	8.7	6.5	10.9	10.9	8.7	28.3	13.1	6.5	
余 村	25~40	0	0.8	0.8	0	0.8	0.8	3.3	3.3	3.3	6.6	9.9	14.9	12.4	14.1	28.1	
	大正 4~14	0	0	0	0	0	5.6	0	5.6	22.2	0	22.2	11.1	5.6	0	27.8	
	昭和 1~15	0	0	0	0	0	2.0	2.0	3.9	2.0	13.7	3.9	11.8	13.7	17.6	15.7	
	16~24	0	0	0	0	0	3.3	0	3.3	10.0	6.7	3.3	30.0	36.7	6.7		
永源寺町	25~40	0	0	0	0	0	1.2	0	2.4	2.4	7.1	9.4	8.2	14.1	15.3	40.0	

表 12 III (物質代謝等の疾患) による死亡の割合

$$\frac{\text{IIIによる死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$$

	男				女			
	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4～6				3.6				0
7～10				1.8				0.6
11～14		2.3		0.5		3.6		0.6
昭和 1～4	6.1	4.6		0.4	0.7	3.3		1.2
5～8	3.5	4.1		0.9	3.2	5.0		0.9
9～12	2.1	3.5	2.8	0.3	2.0	2.5	1.5	0.6
13～16	2.6	3.9	2.1	0.9	4.2	3.2	1.7	0.6
17～20	3.5	4.7	4.4	1.5	2.3	5.1	3.3	1.4
21～24	4.6	6.5	6.2	5.1	3.6	6.7	5.5	1.6
25～28	7.2	1.9	2.3	0.9	4.9	4.7	3.6	0
29～32	2.6	12.6	3.4	0.6	3.8	5.4	2.4	0.6
33～36	3.6	3.4	2.4	0.5	2.4	2.9	1.1	1.7
37～40	0.5	2.1	3.2	1.2	1.1	2.3	2.8	0
昭9～24 の平均	3.2	4.7	3.9	2.0	3.0	4.4	3.0	1.1
標準偏差	1.0	1.2	1.6	1.9	0.9	1.7	1.6	0.5
昭25～40 の平均	3.5	5.0	2.8	0.8	3.1	3.6	2.5	0.6
標準偏差	2.4	4.4	0.5	0.3	1.4	1.3	0.9	0.7

表 13 IV (血液および造血器の疾患) による死亡の割合

$$\frac{\text{IVによる死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$$

	男				女			
	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4～6				0				0
7～10				0				0.4
11～14		0		0	0			0.6
昭和 1～4	0	0		0	0.7	0		0
5～8	0	0		0	0	0		0.3
9～12	0	0	0	0	0.3	0.5	0.3	0
13～16	0.3	0.5	0.2	0.3	0.3	0	0	0.6
17～20	0	0.4	0.2	0	0	0	0	0
21～24	0	0.5	0.2	0	0.8	0.5	0	0
25～28	0	0	0.3	0.5	0.7	0	0.6	0
29～32	0.4	0	0	0	0.9	1.6	0	0.6
33～36	0.7	0	0	0	0	0	0	0
37～40	0	0	0	0	0.6	0	0	0
昭9～24 の平均	0.1	0.4	0.2	0.1	0.4	0.3	0.1	0.2
標準偏差	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2	0.1	0.3
昭25～40 の平均	0.3	0	0.1	0.1	0.6	0.4	0.2	0.2
標準偏差	0.3	0	0.1	0.2	0.3	0.7	0.3	0.3

表 14 V (精神病) による死亡の割合 $\frac{V \text{ による死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$

	男				女			
	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4~6				0				0.6
7~10				0.4				0.4
11~14		0		0		1.8		0.3
昭和 1~4	1.0	0		0.4	0	0		0
5~8	0.9	0		0	0.3	0.9		0.9
9~12	0.9	0.4	0.4	0.6	0.3	1.0	0	0
13~16	0.7	1.0	0.4	0.7	0.3	0.5	0.4	0
17~20	1.3	0	0.2	0.3	0.9	0.8	0.7	0
21~24	1.3	0.5	1.3	0	0.3	0.5	0.7	0
25~28	0.4	0	0.3	0.5	0.7	0	0	0
29~32	0.4	0	0.3	0.6	1.4	0.8	0	0
33~36	0	1.7	0	0.5	0.9	0.9	0.4	0
37~40	0.5	0	0	1.2	0	1.1	0.4	0
昭和 9~24 の平均	1.1	0.5	0.6	0.4	0.5	0.7	0.5	0
標準偏差	0.3	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3	0
昭和 25~40 の平均	0.3	0.4	0.2	0.7	0.8	0.7	0.2	0
標準偏差	0.2	0.7	0.1	0.3	0.5	0.4	0.2	0

の差違もないといつてよいと考える。

V 精神病, 精神神経症および人格異常

この病種については表 14 の通りで, 4 年間に 1 人か 2 人この病種で死んでいるようである。余呉村の女に昭和 9 年以後 1 人も死亡者がいないということが目立っている。

VI 神経系および感覚器の疾患

神経痛および脳出血・脳卒中・脳膜炎・脳炎等

の疾患は, 全国的にも死因順位の第 1 位を占める近代病の 1 つである。ところが表 15 によると, 本籍人口中のこれによる死亡率は, むしろ昭和 10 年~16 年と昭和 27 年~40 年の平均をみてもわかるように, 永源寺町以外は減少し, 永源寺町・朽木村の昭和初期, 余呉村の大正時代をみても, 割合これによる死亡者は昔から多かったようである。これは山間僻地の寒冷のためと, 農林業の労働過重によるものと思われる。(表 15 は次頁)

表 16 VI (神経系および感覚器の疾患) による死亡の割合 $\frac{VI \text{ による死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$

	男				女			
	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4~6				14.3				11.2
7~10				12.0				7.6
11~14		13.6		12.4		9.1		14.4
昭和 1~4	7.2	15.7		11.4	9.5	7.4		12.2
5~8	6.2	15.6		11.8	6.5	11.3		13.6
9~12	8.0	18.9	11.9	15.2	8.6	15.5	6.7	13.8
13~16	10.6	13.7	10.8	14.2	9.4	9.8	10.3	13.1
17~20	14.8	11.9	8.1	9.9	9.0	11.1	7.9	6.7
21~24	11.1	9.0	11.1	8.8	13.5	6.1	7.9	11.0
25~28	10.1	15.6	10.5	12.9	12.7	11.5	11.2	13.6
29~32	16.5	9.0	13.4	29.3	13.7	13.9	16.1	12.5
33~36	19.0	14.3	14.6	17.5	22.3	16.8	16.4	28.3
37~40	24.0	23.4	20.5	20.2	24.4	15.7	22.4	23.5
昭和 9~24 の平均	11.1	13.4	10.5	12.0	10.1	10.6	8.2	11.2
標準偏差	2.4	3.6	1.4	2.7	2.0	3.4	1.3	2.8
昭和 25~40 の平均	17.4	15.6	14.8	20.0	18.3	14.5	16.5	19.5
標準偏差	5.0	5.2	3.6	6.0	5.1	2.0	4.0	6.7

表 15 死因別死亡率 (Ⅵ神経系および感覚器の疾患)

$\frac{\text{Ⅵによる死亡者数}}{\text{本籍人口}} \times 10\text{万}$

	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4				124.9
5				159.4
6				159.7
7				185.9
8				160.8
9				86.5
10				196.7
11				170.4
12				268.8
13				192.9
14		211.3		276.0
昭和 1		248.9		153.9
2		170.1		164.4
3	106.6	248.9		173.4
4		70.3		304.0
5	78.6	342.9		197.6
6	60.7	150.8		288.1
7	94.6	484.4		217.1
8	77.1	130.5		251.6
9	119.1	297.2		227.5
10	108.4	367.6	189.1	181.4
11	166.2	363.0	238.7	361.9
12	74.6	307.2	102.3	315.0
13	141.2	198.2	165.1	257.4
14	150.2	126.6	178.4	236.0
15	157.5	217.7	139.3	201.9
16	223.0	289.9	195.1	259.5
17	?	?	?	?
18	?	?	?	?
19	?	?	?	?
20	?	?	?	?
21	?	?	?	?
22	?	?	?	?
23	153.6	180.1	?	77.9
24	183.7	89.5	?	120.4
25	79.1	208.4	?	185.2
26	164.6	188.9	?	171.9
27	62.9	117.1	77.0	64.5
28	180.2	182.5	111.0	170.5
29	148.1	49.0	133.9	138.1
30	128.7	149.7	86.6	179.6
31	153.3	104.7	120.9	179.5
32	91.8	133.5	127.3	211.1
33	160.9	116.8	126.7	189.1
34	200.4	133.8	163.1	231.7
35	139.5	150.2	127.1	189.2
36	194.2	167.1	145.8	284.8
37	156.0	133.7	189.5	169.4
38	156.4	217.5	152.5	171.0
39	212.0	100.6	171.8	128.5
40	227.5	151.6	177.1	225.4
昭和10~16 の平均	145.9	267.2	172.6	259.0
標準偏差	43.1	83.1	40.2	58.0
昭和27~40 の平均	158.0	136.3	136.5	180.9
標準偏差	43.2	38.7	31.7	49.9

図 11 Ⅵ (神経系および感覚器の疾患) の年齢層別死亡の割合

死亡者総数に対するこの死因による死亡者の割合は表16に掲げたが、余呉村の男女とも昭和25年～40年では20%近くを示め、この相対的数字においては各町村とも、男女とも増加している。

表17で時代を3つないし4つに大別し年齢別にみると、若年層は年代が下がるほどこれによる死亡は減少しているが、高年齢層になるに従い高率で、特に昭和25年以後は各町村ともこれによる死亡は大きい。これは昭和24年までは、各年齢層に散らばっていたこの死因が、老年層に集中したこ

とを示している。

これを男女合計してグラフにした図11は、このことが明瞭に現われている。なお、余呉村の昭和25年以降の若年層における死亡者ゼロ(女)、または僅少(男)なことは、他の町村に比べて見ごとである。昭和初期～15年のグラフにおいて、4か町村とも1～4才児にこの死因による死亡者の多いことを示しているが、これは脳膜炎によるものがほとんどである。昭和25年以後減少していることは、共通した点である。

表 17 VI (神経系および感覚器の疾患) の年齢層別死亡の割合

$$\frac{\text{その年齢層のⅥの死亡者数}}{\text{Ⅵによる死亡者数}} \times 100$$

性別	町村名	年代	年 令 層 別																	
			0 1	1 4	5 9	10 14	15 19	20 24	25 29	30 34	35 39	40 44	45 49	50 54	55 59	60 64	65 69	70 以上		
男	永森町	昭3~15	5.0	13.7	2.5	0	3.7	1.3	0	3.7	5.0	5.0	1.3	8.8	8.8	5.0	8.8	27.5		
		16~24	2.4	0	1.6	2.4	1.6	1.6	0	1.6	0.8	1.6	0.8	10.4	5.6	16.8	16.0	36.8		
		25~40	0.6	0.6	0	0	0.6	0.6	0.6	1.2	0	0.6	3.7	4.3	9.3	14.9	13.7	49.1		
	朽木村	大4~15	7.5	9.0	3.8	0.8	4.5	1.5	0.8	0	1.5	0	3.0	5.3	6.8	5.3	13.5	36.9		
		16~24	0	10.5	1.8	3.5	1.8	1.8	0	0	1.8	1.8	3.5	1.8	12.3	12.3	17.6	29.8		
		25~40	1.4	1.4	0	0	1.4	0	0	0	0	2.7	1.4	2.7	13.7	15.1	16.4	43.9		
	信楽町	昭10~15	2.9	6.9	2.0	3.9	2.0	2.0	3.9	1.0	2.0	1.0	5.9	1.0	8.8	13.7	11.8	31.4		
		16~24	0.8	5.9	3.4	2.5	5.1	2.5	0.8	1.7	0.8	1.7	1.7	4.2	14.4	6.8	16.9	30.5		
		25~40	1.1	1.6	1.1	0.5	0.5	0.5	1.1	0	0.5	1.6	2.7	4.4	5.5	10.4	14.8	54.1		
	余呉村	大4~14	13.1	18.8	5.8	1.5	4.3	1.5	0	1.5	1.5	0	2.9	0	0	5.8	4.3	39.2		
		昭1~15	6.0	11.4	2.7	0.7	2.7	0.7	1.3	2.7	0	2.0	2.7	4.0	6.7	8.7	16.1	31.5		
		16~24	4.1	5.5	2.7	1.4	2.7	1.4	1.4	0	4.1	1.4	5.5	0	8.2	15.1	20.5	26.0		
25~40		0	0	0.7	0	0.7	0	0	0.7	0.7	0	1.4	5.0	10.6	8.5	13.5	58.2			
女	永森町	昭3~15	5.8	11.6	4.7	1.2	2.3	0	2.3	2.3	1.2	0	4.7	2.3	8.1	11.6	11.6	30.3		
		16~24	5.0	5.0	0	1.0	2.0	2.0	1.0	3.0	2.0	2.0	2.0	5.0	7.9	7.9	18.8	35.6		
		25~40	0.7	0.7	1.9	0	0.7	0.7	0	0	0	1.9	1.9	3.2	7.1	8.4	16.2	56.5		
	朽木村	大4~15	9.0	13.5	6.7	1.1	4.5	2.2	1.1	3.4	1.1	0	0	1.1	5.6	4.5	12.4	33.7		
		16~24	0	0	9.1	0	0	0	2.3	2.3	2.3	0	4.5	2.3	4.5	13.6	18.2	38.6		
		25~40	0	0	1.5	1.5	0	0	0	1.5	3.0	1.5	0	6.0	1.5	11.9	23.9	47.8		
	信楽町	昭10~15	0	10.7	1.8	3.6	1.8	0	0	0	1.8	1.8	0	1.8	1.8	3.6	21.4	50.0		
		16~24	2.0	7.1	5.0	0	1.0	1.0	3.0	1.0	4.0	5.0	4.0	4.0	4.0	8.1	10.1	40.4		
		25~40	2.3	1.7	0	1.7	0.6	0.6	0	0	0.6	0	0	4.0	5.7	7.9	18.6	57.6		
	余呉村	大4~14	15.1	10.8	6.5	0	1.1	1.1	0	2.2	1.1	2.2	1.1	3.2	5.4	7.5	9.7	33.3		
		昭1~15	5.0	11.2	3.1	1.3	3.1	3.1	0	1.3	1.3	2.5	1.3	4.4	5.0	11.2	8.7	37.5		
		16~24	3.2	3.2	4.8	3.2	0	1.6	0	1.6	1.6	1.6	3.2	6.4	6.4	11.1	15.9	36.6		
25~40		0	0	0	0	0	0	0	0.8	0.8	3.0	2.3	5.3	6.1	3.8	7.6	70.5			

VII 循環器系の疾患

心機不全・動脈硬化・心内膜炎・高血圧・僧帽弁の疾患などによる死亡は、老年層に多いのであるが、表18によれば、昭和10年~16年ころは信楽町・余呉村が多く、昭和27年~40年は余呉村が特に多くなっている。信楽町を除いて他の3カ町村は、昭和前半よりも後半の方が増加している。

表19によると、死亡者総数中のこの死因による死亡の割合は特に昭和37年~40年になって急増している。また下欄の平均を比べて後半は3倍前後も増加している。全国的には昭和30年ごろから多

くなつてきた疾患である。

表20で年令的に分けてみると、高年令層になるにつれ率を高めている死因であることが分る。中でも朽木村は、男女とも特に男は全時代を通じて若年層の死亡者が目立って少ない。

図12は前項のVIと同じ傾向のグラフになっている。20~24才における昭和初期から昭和15年のピークも昭和後半には消え、各年令層とも低率になっている。

VIII 呼吸器系の疾患

表21の死亡率の表から、肺炎・気管支炎・感冒

表 19 VII (循環器系の疾患) による死亡の割合

$$\frac{\text{VIIによる死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$$

	男		女	
	永楽寺町	朽木村	永楽寺町	朽木村
大正 4~6		2.7		5.6
7~10		4.0		6.3
11~14	2.3	3.7	0	6.9
昭和 1~4	3.1	6.1	2.9	5.8
5~8	3.1	0.9	3.5	7.9
9~12	3.4	1.3	3.2	6.8
13~16	3.3	4.9	3.2	5.9
17~20	4.1	1.1	2.9	6.1
21~24	4.6	3.5	4.4	10.2
25~28	4.7	7.1	5.2	11.1
29~32	9.4	7.2	7.6	12.5
33~36	10.7	7.6	10.0	13.9
37~40	17.9	14.8	18.4	24.3
昭和 9~24 の平均	3.9	2.7	3.4	6.0
標準偏差	0.5	1.6	0.6	3.0
昭和 25~40 の平均	10.7	9.2	10.3	9.9
標準偏差	4.7	3.3	4.5	0.7

表 18 死因別死亡率 (VII 循環器系の疾患)

$$\frac{\text{VIIによる死亡者数}}{\text{本籍人口}} \times 10万$$

	永楽寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4	資料なし	資料なし	資料なし	74.9
5				73.6
6				12.3
7				148.8
8				61.8
9				24.7
10				122.9
11				97.7
12				109.6
13				48.2
14				120.0
昭和 1		19.2		82.9
2		134.0		82.2
3		94.5		69.4
4	44.4	76.6		140.3
5	17.6	19.1		81.4
6	52.4	19.0		115.2
7	43.3	37.7		148.5
8	51.6	37.3		125.8
9	17.1	55.9		159.2
10	34.0	55.7		113.4
11	16.7	18.4	71.7	90.5
12	49.9	54.4	103.2	168.7
13	66.4	18.1	89.5	134.3
14	41.5	54.1	114.3	78.7
15	25.0	90.4	89.2	56.1
16	58.0	72.6	82.3	101.5
17	90.8	72.5	125.9	?
18	?	?	?	?
19	?	?	?	?
20	?	?	?	?
21	?	?	?	?
22	?	?	?	?
23	72.7	72.0	?	122.4
24	79.9	152.2	?	65.7
25	71.2	104.2	?	152.5
26	109.7	137.4	?	86.0
27	15.7	100.4	?	75.2
28	15.7	49.8	47.4	74.6
29	46.8	98.0	58.4	116.8
30	53.0	74.9	75.7	147.9
31	84.4	0	28.9	63.4
32	107.1	16.7	86.3	137.2
33	76.6	66.7	109.2	168.0
34	123.3	16.7	54.3	168.5
35	108.5	83.4	96.6	147.2
36	62.1	66.8	133.1	116.0
37	156.0	133.7	103.3	201.2
38	148.5	100.4	134.5	192.3
39	114.1	134.1	73.2	107.1
40	141.1	84.2	91.6	193.2
昭和 10~16 の平均	49.8	54.4	96.6	106.2
標準偏差	23.3	25.6	17.5	34.4
昭和 27~40 の平均	89.5	73.3	84.6	136.3
標準偏差	44.7	39.7	29.7	44.2

表 20 VII (循環器系の疾患) の年令層別死亡の割合

$$\frac{\text{その年令層のⅦの死亡者数}}{\text{Ⅶによる死亡者数}} \times 100$$

性別	町 名	年 代	年 令 層 別															
			0	1	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70
男	永源寺町	昭和3~15	10.3	10.3	6.9	0	0	10.3	3.4	6.9	3.4	0	6.9	10.3	3.4	10.3	0	17.2
		16~24	2.3	0	2.3	2.3	0	7.0	2.3	0	2.3	4.7	2.3	14.0	7.0	16.3	14.0	23.3
		25~40	0	1.0	2.0	0	2.0	0	2.0	3.0	1.0	6.0	2.0	3.0	10.0	11.0	9.0	48.0
	朽木村	大正14~15	3.8	0	0	0	0	7.7	3.8	0	3.8	3.8	0	7.7	11.5	15.4	38.4	
		16~24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16.6	41.7	41.7
		25~40	0	0	0	2.5	0	0	0	0	0	0	0	7.5	5.0	7.5	15.0	2.5 60.0
	信楽町	昭和10~15	2.5	0	2.5	5.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	0	2.5	5.0	2.5	17.5	15.0	35.0
		16~24	2.9	1.4	1.4	2.9	2.9	0	0	1.4	1.4	2.9	2.9	2.9	5.7	12.9	17.1	41.4
		25~40	0.9	0.9	0.9	0	0.9	1.8	1.8	0.9	2.7	1.8	2.7	2.7	3.6	13.5	26.1	47.7
	余呉村	大正14~15	10.0	0	0	0	0	0	5.0	5.0	0	5.0	0	0	0	10.0	25.0	40.0
		昭和1~15	1.6	1.6	0	0	4.6	6.1	1.6	3.1	0	1.6	6.1	10.7	6.1	15.6	7.7	33.9
		16~24	0	0	4.7	2.3	2.3	0	4.7	0	4.7	4.7	9.3	16.2	7.0	7.0	35.0	
女	永源寺町	昭和3~15	5.9	0	0	0	5.9	5.9	5.9	8.8	2.9	8.8	2.9	0	11.8	11.8	5.9	23.5
		16~24	2.9	2.9	0	0	0	2.9	5.9	0	2.9	2.9	5.9	0	8.8	26.5	8.8	29.4
		25~40	2.4	0	0	2.4	1.2	1.2	1.2	2.4	1.2	5.9	3.5	1.2	4.7	1.2	10.6	61.2
	朽木村	大正14~15	0	5.0	0	0	15.0	5.0	5.0	5.0	0	0	10.0	0	5.0	15.0	35.0	
		16~24	0	4.8	0	0	4.8	0	9.5	9.5	0	4.8	4.8	0	9.5	23.8	28.6	
		25~40	0	0	0	0	3.0	3.0	0	0	3.0	3.0	9.1	3.0	3.0	15.2	57.6	
	信楽町	昭和10~15	0	6.6	2.2	0	2.2	4.4	0	4.4	2.2	2.2	0	0	11.1	8.9	46.7	
		16~24	0	2.5	0	1.3	5.0	1.3	1.3	3.8	6.2	3.8	3.8	3.8	8.7	12.5	15.0	31.2
		25~40	2.7	0	0.9	0.9	1.8	0.9	0.9	0.9	1.8	2.7	2.7	2.7	5.4	7.2	16.2	52.5
	余呉村	大正14~15	1.8	1.8	1.8	0	1.8	3.6	5.4	1.8	1.8	7.3	5.4	7.3	10.9	10.9	5.4	32.8
		昭和1~15	3.9	1.3	1.3	0	3.9	9.0	1.3	2.6	6.4	5.1	2.6	10.5	7.4	10.5	10.5	24.4
		16~24	1.9	1.9	1.9	0	1.9	7.4	0	1.9	1.9	1.9	1.9	7.4	14.8	55.5	18.5	33.3
		25~40	0.9	0	0.9	0.9	0	4.9	2.0	0	4.9	2.0	0	2.0	3.9	3.9	9.9	65.5

図12 VII (循環器系の疾患) の年令層別死亡の割合

表 22 Ⅷ (呼吸器系の疾患) による死亡の割合

Ⅷによる死亡者数
死亡者総数 × 100

	男		女	
	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4~6			21.2	11.8
7~10			19.1	25.6
11~14	2.3		14.2	12.6
昭和 1~4	9.2	18.2	15.8	13.7
5~8	11.0	9.7	16.8	10.3
9~12	10.1	16.6	11.0	10.0
13~16	11.6	12.2	17.9	17.1
17~20	13.1	15.9	15.7	15.6
21~24	11.4	10.0	13.1	12.3
25~28	10.1	15.6	10.8	14.3
29~32	6.8	12.6	10.3	7.7
33~36	7.9	8.4	9.8	8.7
37~40	5.7	6.4	6.2	11.0
昭和 9~12 の平均	11.6	13.7	16.2	13.7
標準偏差	1.1	2.7	2.0	2.3
昭和 25~40 の平均	7.6	10.8	9.3	10.4
標準偏差	1.6	3.6	1.8	2.5

表 21 死因別死亡率 (Ⅷ呼吸器系の疾患)

Ⅷによる死亡者数
本籍人口 × 10万

	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4	資料なし	資料なし	資料なし	137.3
5				184.0
6				233.4
7				446.3
8				222.6
9				605.3
10				258.1
11				109.6
12				366.5
13				229.1
14				180.0
昭和 1		38.4		153.9
2		368.3		187.9
3		94.5		265.9
4	97.7	268.5		374.1
5	87.9	286.0		192.6
6	52.4	226.2		242.0
7	147.4	226.2		274.2
8	128.9	130.5		297.3
9	180.0	130.5		170.6
10	108.4	271.5	247.8	328.8
11	141.0	250.4	406.5	203.6
12	141.0	361.5	274.8	168.7
13	244.3	244.1	274.1	268.5
14	183.6	217.1	293.2	292.1
15	149.2	163.3	184.6	180.7
16	181.7	199.3	289.5	282.1
17	?	?	?	?
18	?	?	?	?
19	?	?	?	?
20	?	?	?	?
21	?	?	?	?
22	?	?	?	?
23	113.1	216.1	?	89.0
24	95.8	214.7	?	109.4
25	118.7	156.3	?	119.8
26	62.7	223.2	?	107.5
27	125.8	234.2	77.0	75.2
28	94.0	132.7	81.8	234.4
29	62.4	65.3	100.9	31.9
30	37.8	119.8	69.3	84.5
31	15.3	15.0	28.8	10.6
32	107.1	150.5	109.2	116.1
33	53.6	78.5	78.5	115.5
34	61.7	16.7	36.2	84.3
35	54.2	96.8	96.8	84.1
36	93.2	33.4	91.1	42.2
37	23.4	0	48.9	127.1
38	39.1	50.2	54.9	32.1
39	32.6	16.8	49.1	64.2
40	78.5	84.2	73.3	96.6
昭和 10~16 の平均	161.4	235.9	278.5	247.8
標準偏差	35.1	71.4	66.2	55.6
昭和 27~40 の平均	62.8	78.7	71.1	85.6
標準偏差	31.8	66.6	23.7	53.2

表 23 VIII(呼吸器系の疾患)の年令層別死亡の割合

$$\frac{\text{その年令層のVIIIの死亡者数}}{\text{VIIIによる死亡者数}} \times 100$$

性別	町村名	年代	年 令 層 別															
			0才	1才	5才	10才	15才	20才	25才	30才	35才	40才	45才	50才	55才	60才	65才	70才以上
男	永源寺町	昭3-15	45.8	20.9	5.7	1.9	1.9	1.9	2.9	2.9	0.9	1.9	0	0.9	0.9	3.8	1.9	5.7
		16-24	34.2	15.3	2.7	0.9	1.7	0.9	1.7	0.9	1.7	1.7	5.1	2.7	8.5	3.4	10.2	8.5
		25-40	15.8	9.2	0	0	0	2.6	2.6	5.3	2.6	2.6	1.3	0	5.3	5.3	10.2	34.2
	朽木村	大14-昭5	18.7	21.4	3.6	4.5	0.9	5.3	1.8	3.6	1.8	0.9	1.8	0.9	8.1	4.5	4.5	17.8
		16-24	13.9	18.2	5.5	4.2	4.2	6.9	2.8	2.8	0	2.8	4.2	2.8	1.4	12.5	9.7	8.3
		25-40	25.9	12.9	1.8	1.8	0	1.8	0	1.8	0	0	3.7	3.7	1.8	9.3	5.6	28.7
	信楽町	昭10-15	17.4	16.8	3.2	0.6	2.6	1.3	1.3	1.9	1.3	1.9	2.6	3.9	7.1	11.6	12.2	14.2
		16-24	18.5	17.9	4.9	1.6	2.7	2.2	2.7	3.8	1.6	1.6	0	3.3	5.4	5.4	8.7	18.5
		25-40	12.9	12.9	0.9	0	0.9	1.7	0.9	2.6	0.9	1.7	1.7	6.9	4.3	6.9	10.3	34.4
	余呉村	大4-14	31.1	16.1	10.1	1.0	5.1	3.0	7.1	3.0	1.0	0	2.0	1.0	0	2.0	5.1	11.1
		昭1-15	22.3	18.9	4.7	2.4	4.1	3.0	3.0	1.2	3.5	0.6	5.9	3.0	4.1	5.3	8.3	8.9
		16-24	13.6	12.6	1.9	1.0	1.9	1.9	0	1.0	5.8	3.9	3.9	1.0	12.6	8.7	15.5	14.5
		25-40	14.1	5.1	3.9	1.3	1.3	1.3	0	0	0	0	2.6	1.3	9.0	6.4	12.8	41.1
女	永源寺町	昭3-15	29.7	27.0	2.7	0.9	7.2	2.7	2.7	3.6	3.6	3.6	0.9	0	0.9	0.9	0.9	12.6
		16-24	32.3	21.5	5.4	1.0	1.0	4.3	2.1	4.3	3.2	1.0	1.0	1.0	5.4	5.4	2.1	8.6
		25-40	16.6	8.3	3.3	1.7	3.3	0	3.3	0	1.7	3.3	0	1.7	3.3	1.7	10.0	41.6
	朽木村	大14-昭5	22.2	18.5	4.9	0	6.2	12.3	1.2	4.9	1.2	2.5	1.2	1.2	3.7	1.2	2.5	16.1
		16-24	29.1	18.2	1.8	1.8	3.6	3.6	1.8	3.6	3.6	5.4	3.6	0	5.4	1.8	1.8	14.5
		25-40	26.3	18.4	2.6	2.6	0	0	0	0	2.6	0	2.6	2.6	5.3	0	5.3	26.3
	信楽町	昭10-15	13.1	22.8	4.4	0	5.2	4.4	3.5	3.5	2.6	0.9	2.6	2.6	2.6	4.4	3.5	14.9
		16-24	20.9	30.0	2.4	0	3.6	1.8	1.8	2.4	1.8	1.2	1.2	1.8	3.6	6.6	6.6	14.4
		25-40	27.4	7.1	2.4	2.4	0	1.2	2.4	2.4	1.2	0	0	1.2	4.8	5.9	8.4	35.3
	余呉村	大4-14	23.1	20.3	0.6	0.3	0.8	0.6	0.4	0.3	0.4	0.4	0.1	0.1	0.3	0.1	0.3	0.9
		昭1-15	25.0	15.8	4.6	3.9	7.2	3.9	3.9	3.9	2.6	2.6	2.0	2.6	2.0	3.3	3.9	12.5
		16-24	19.7	15.8	5.3	1.4	2.7	3.9	3.9	2.7	0	2.7	3.9	2.7	5.3	6.6	8.0	15.8
		25-40	25.5	9.8	0	3.9	1.9	1.9	1.9	0	1.9	1.9	3.9	1.9	3.9	1.9	3.9	35.3

は戦後まもなく急激に減少していることがわかる。下欄の平均を比べても、昭和27年以降のは戦前の1/3ほどである。特に昭和16年までは数字が3桁で、気候不順で寒冷地のせいと思われるが、最近では抗生物質による新薬の効力が、死亡を減少せしめたものと思われる。

表22の死亡者中のこの死因による死亡割合も、4カ町村・男女とも減っている。比較的永源寺町は全時代を通じてこの病種による死亡は少なく、昭和前半に信楽町に多かったのは、幾分風土と関係しているようである。

年令層別にみるとこの疾病は乳幼児と老年層に多く、時代と共に0～4才の死亡の割合が減り、老年層においてふえる傾向にある。表23をみると、朽木村においては、男女とも特に女が0～4才の死亡が一向に減らないことは問題である。中間年令層は、どの町村とも時代と共に死亡割合は減っている。

これをグラフにしたものが図13である。時代と共に老人層が高率になってきているが、0才の死亡割合の状態からみて、現在なお克服をめざすべき病種の1つであるといえよう。

胃および十二指腸疾患・肝硬変・脾臓病・虫垂炎などは表24にみられるように、特に農山村に多い疾病であるが、昭和27年～40年の平均は昭和前半にくらべて非常に減少した病種の代表的なものと言えよう。これは食生活が改善されたことを物語っているが、しかし、この減少のしかたは、やっと昭和36、7年ごろから3桁を脱したわけで、中でも永源寺町はまだ減少一途とまではいかない。農山村への生活改善の滲透はこれにおそいといわねばならない。

表 24 死因別死亡率(Ⅸ消化器系疾患)

$$\frac{\text{Ⅸによる死亡者数}}{\text{本籍人口}} \times 10\text{万}$$

生活の改善，食糧事情の好転，衛生的知識の普及などから（衛生民度の向上発展），昔から病氣といえは「腹いた」であった持病が姿を消したことを意味している。

年令層別に表 26 ををみると、0～4才と50才以上に死亡者が多いことが分る。どの町村も0～4才では男女とも年代と共に減少し、70才以上の死亡割合がふえているが、朽木村では0才で減少する傾向が特に女において悪く、昭和25年～40年において永源寺町の2倍も死亡している。どの町村

表 26 IX (消化器系疾患) の年令層別死亡の割合

$$\frac{\text{その年令層のIXの死亡者数}}{\text{IXによる死亡者数}} \times 100$$

性別	年代	年 令 層 別																		
		0	1	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85
男	昭和3-15	18.8	33.9	2.4	1.2	3.0	4.3	2.4	2.4	1.8	1.2	1.2	4.6	3.0	6.1	6.1	7.3			
	昭和16-24	6.3	18.9	5.2	1.7	4.1	2.3	1.1	2.9	3.5	2.3	4.1	4.6	9.2	6.9	9.2	17.7			
	昭和25-40	6.1	4.6	0.8	0	0	0.8	1.5	3.1	0.8	7.7	3.1	8.5	7.7	10.8	12.3	32.2			
	昭和41-44	23.6	20.1	1.2	1.7	2.9	5.9	1.7	1.2	2.9	4.1	1.2	3.5	4.1	5.3	3.5	16.6			
	昭和45-49	24.0	20.8	3.1	2.1	3.1	2.1	1.4	2.1	2.1	4.2	4.2	1.4	9.4	6.3	5.2	9.4			
女	昭和3-15	12.5	6.3	2.1	0	0	0	2.1	0	0	2.1	6.3	10.4	6.3	8.3	18.7	25.0			
	昭和16-24	10.6	28.4	1.2	1.7	1.2	2.9	2.4	2.9	2.9	1.7	2.4	1.2	5.3	8.3	6.5	20.1			
	昭和25-40	12.3	20.1	3.0	0	1.9	1.5	0	2.2	2.2	4.1	3.8	7.9	4.9	7.5	19.5	16.5			
	昭和41-44	5.2	8.6	0.6	0.6	0.6	1.2	2.3	1.2	2.9	1.7	5.8	4.6	8.6	9.8	14.9	31.6			
	昭和45-49	34.4	31.4	2.9	1.7	1.7	2.3	0	0.6	0	1.2	0.6	0.6	0.6	1.7	2.9	17.4			
男	昭和10-15	19.2	28.4	4.2	3.4	2.9	1.7	2.5	1.2	2.1	1.7	3.4	2.9	8.2	4.6	4.2	9.6			
	昭和16-24	8.9	25.6	4.3	1.1	2.2	2.2	1.7	1.7	5.0	3.3	3.3	2.8	8.3	7.2	7.2	15.0			
	昭和25-40	9.9	12.1	3.3	0	0	2.2	1.1	2.2	3.3	2.2	2.2	7.7	7.7	8.8	7.7	29.6			
	昭和41-44	12.6	22.8	3.9	2.9	2.9	2.4	5.3	4.8	2.4	3.9	0.5	3.9	7.8	4.8	4.8	14.0			
	昭和45-49	8.3	18.3	5.3	1.7	4.7	5.3	0.6	2.4	2.9	1.2	3.5	2.4	6.5	5.3	10.6	20.6			
女	昭和3-15	7.8	7.8	2.6	0.9	0.9	0.9	1.7	0	3.5	1.7	0.9	8.6	7.8	7.8	6.9	40.4			
	昭和16-24	17.9	22.8	2.2	1.1	5.5	7.1	2.2	3.3	2.7	2.7	0.6	1.7	6.0	6.0	4.4	14.1			
	昭和25-40	12.3	20.3	1.4	2.7	8.1	5.4	1.4	4.1	1.4	5.4	1.4	2.7	6.8	6.8	6.8	13.5			
	昭和41-44	15.5	13.3	6.7	0	0	2.2	4.5	2.2	2.2	0	0	6.7	4.5	4.5	2.2	35.6			
	昭和45-49	11.1	26.6	4.3	1.9	1.9	3.1	2.5	1.9	3.1	0.6	0.6	4.9	4.9	4.9	6.8	21.0			
男	昭和10-15	10.3	17.9	3.1	0.9	1.8	4.5	3.6	2.2	2.7	2.2	0.5	3.6	6.5	3.6	14.8	21.9			
	昭和16-24	0.9	10.2	0.6	0	1.2	1.2	1.2	2.4	1.2	0.6	1.8	4.2	6.6	6.6	10.2	42.8			
	昭和25-40	16.6	25.0	3.9	2.2	4.8	3.5	3.9	1.8	0.9	0.9	0.9	3.1	3.5	5.3	6.1	17.5			
	昭和41-44	19.2	20.9	5.5	4.1	8.6	6.5	1.4	1.7	1.0	1.7	3.1	2.4	3.4	3.4	5.5	11.7			
	昭和45-49	9.8	24.5	4.0	2.9	5.7	5.1	5.7	1.7	2.3	4.0	3.1	1.7	5.1	5.1	7.5	13.7			
女	昭和3-15	6.3	5.2	1.4	1.4	1.4	2.1	1.4	2.1	1.4	2.1	4.2	3.1	7.3	9.4	10.4	42.8			

表 25 IX (消化器系疾患) による死亡の割合

$$\frac{\text{IXによる死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$$

		男				女			
		永原町	松本村	信楽町	余里村	永原町	松本村	信楽町	余里村
大正4~6	大正4~6				35.7				35.3
	昭和7~10				30.1				26.2
	昭和11~14		20.4		24.7		40.0		26.1
	昭和15~18	14.3	23.8		19.5	17.5	18.3		27.7
	昭和19~22	15.0	21.1		23.1	17.0	18.2		19.3
昭和23~26	昭和23~26	17.1	17.5	21.7	19.3	20.0	20.7	23.0	24.6
	昭和27~30	18.6	11.7	17.1	20.6	18.8	27.3	18.7	22.8
	昭和31~34	20.2	18.7	21.5	24.3	19.9	18.0	20.8	25.7
	昭和35~38	15.2	20.5	21.7	23.5	16.5	9.5	19.2	21.8
	昭和39~42	16.8	6.5	17.9	19.9	20.1	8.8	21.6	18.5
昭和43~46	昭和43~46	11.5	9.0	17.2	11.5	11.4	13.9	15.7	16.2
	昭和47~50	11.5	13.4	11.9	10.7	11.4	10.9	11.1	11.7
	昭和51~54	12.7	9.6	7.9	4.9	8.3	6.7	8.5	8.1
	昭和55~58	17.8	17.1	20.5	21.9	18.8	18.9	20.4	23.7
	昭和59~62	1.8	3.3	2.0	2.1	1.4	6.4	1.7	1.5
昭和63~66	昭和63~66	13.1	9.6	13.7	11.8	12.8	10.1	14.2	13.6
	昭和67~70	2.2	2.5	4.1	5.4	4.4	2.7	5.0	4.0

図14 IX（消化器系疾患）の年齢層別死亡の割合

も中間年齢層の死亡割合は、経年的に減少をみせていないことは注目すべきことであろう。信楽町では、乳幼児死亡は、昭和前半に比べて後半は半分へっている。どの町村も高率になっているのは70才以上である。

図14において、これらを時代的動きとして比較してみる。0才および1～4才における死因のピークは時代と共に低くなり、70才以上が高くなってきている。しかし、乳幼児期における下痢・腸炎などによる消化器系の疾患をもっと減少させる余地があると考ええる。

Ⅹ 性尿器系の疾患

腎臓炎・ネフローゼ・萎縮腎などによる死亡率は表27に示されている。平均をみてもわかるが、余呉村はこれによる死因が多いようであり、信楽町・朽木村は昔から少なく戦後さらに減少したようにみえる。昭和27年～40年までの平均は、前半の平均よりも1/3位減少しているが、標準偏差が

表 27 死因別死亡率（Ⅹ性尿器系の疾患）

$\frac{X \text{ による死亡者数}}{\text{本籍人口}} \times 10 \text{ 万}$

	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正	4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	資料なし	資料なし	62.9 49.1 36.9 62.0 49.4 86.0 85.2 73.3 156.8 132.0
昭和	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40	38.4 130.4 75.6 76.6 76.3 133.3 75.4 74.5 93.2 92.9 55.1 72.6 18.1 36.0 72.4 90.7 0 ? ? ? ? ? ? 64.7 31.9 39.6 54.9 31.5 23.5 31.2 22.7 15.3 0 23.0 7.7 38.7 0 7.8 15.6 8.2 15.7	58.7 71.0 57.5 69.9 51.0 44.3 31.5 ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? 18.0 17.9 17.4 17.2 33.5 33.2 0 14.9 15.0 30.3 12.1 6.0 0 0 16.7 0 0 0 0 0 0	113.4 101.8 67.5 145.5 101.1 179.5 112.8 ? ? ? ? ? 22.2 32.8 32.7 64.5 43.0 53.3 10.6 10.6 21.1 0.7 31.5 10.5 63.1 73.8 52.9 21.4 21.4 10.7
昭10~26の平均標準偏差	59.4 18.6	49.3 30.3	54.8 13.0	117.4 33.1
昭27~40の平均標準偏差	17.2 11.4	12.9 12.8	13.5 13.9	33.4 20.7

大きいということは年によって死亡数に大きくむらがあることを示している。

表28でも男女とも余呉村が大きい数字を示しているが、どの町村も男女とも、昭和前半に比べて後半は減少している。

Ⅺ 正常分娩ならびに妊娠、分娩および産褥の合併症

妊娠腎・子癇・外妊娠などによる死亡割合を表29に掲げたが、永源寺町と余呉村は昭和33年から死亡者なしの成績を出し、母胎保護の管理が行き

表 28 X (性尿器系の疾患) による死亡の割合

$$\frac{X \text{ による死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$$

	男				女			
	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4~6				7.1				2.2
7~10				5.3				4.1
11~14		2.3		5.9		1.8		7.2
昭和 1~4	4.1	5.1		8.2	3.7	3.7		4.9
5~8	3.1	4.1		10.0	6.2	5.0		5.5
9~12	5.8	0.8	2.6	4.5	3.7	5.6	4.4	5.6
13~16	1.7	3.4	3.8	7.9	4.7	2.1	2.4	7.5
17~20	4.1	4.7	2.9	5.7	6.9	3.4	4.7	7.2
21~24	3.8	2.0	1.8	2.4	5.5	2.2	2.6	4.7
25~28	2.9	1.9	2.3	4.6	4.1	2.0	2.1	4.1
29~32	2.2	0	3.4	1.9	1.9	1.6	2.4	1.8
33~36	1.6	3.4	0.9	5.0	2.4	0	0	3.9
37~40	2.4	0	0.7	3.7	0.6	1.1	0.4	2.9
昭和 9~24 の平均	3.9	2.7	2.8	5.1	5.2	3.3	3.5	6.3
標準偏差	1.5	1.5	0.7	2.0	1.7	1.4	1.0	1.2
昭和 25~40 の平均	2.3	1.3	1.8	3.8	2.3	1.2	1.2	3.2
標準偏差	0.5	1.4	1.1	1.2	1.3	1.1	1.0	0.9

表 30 XII (皮膚の疾患) による死亡の割合

$$\frac{XII \text{ による死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$$

	男				女			
	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4~6				0				0.6
7~10				0.4				0
11~14		2.3		0		0		0.3
昭和 1~4	0	1.0		0.4	0	0		0
5~8	0	0		0	0.6	0.9		0.3
9~12	0	0.8	0.2	0.3	0.3	0	1.3	0
13~16	0.7	0.5	0.6	0.9	1.0	0	0.2	0
17~20	0	0	0.1	0	0.7	0	0.3	0
21~24	0.5	0	0	0	0.8	0	0.4	0.4
25~28	0.4	0	0	0	0	0	0.3	0
29~32	0.4	0	0	0	0	0	0.4	0
33~36	0	0	0	0	0	0	0	0
37~40	0.5	0	0	0	0.6	0	0	0
昭和 9~24 の平均	0.3	0.3	0.2	0.3	0.7	0	0.6	0.1
標準偏差	0.3	0.4	0.2	0.4	0.3	0	0.4	0.2
昭和 25~40 の平均	0.3	0	0	0	0.2	0	0.2	0
標準偏差	0.2	0	0	0	0.3	0	0.2	0

表 29 XI (妊娠, 分娩) による死亡の割合

$$\frac{\text{XIによる死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$$

	女			
	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4~6				1.7
7~10				1.8
11~14		0		0.6
昭和 1~4	0.7	2.0		0.6
5~8	0.6	0		1.8
9~12	0.6	0	1.0	0.3
13~16	0.8	1.6	0.4	1.3
17~20	0.9	0.8	0.9	0.6
21~24	0.8	1.1	0.7	0.8
25~28	0.7	0.7	0.3	0.9
29~32	0.9	1.6	0.4	0.6
33~36	0	0.9	1.1	0
37~40	0	1.1	0.4	0
昭和 9~24 の平均	0.7	0.9	0.8	0.8
標準偏差	0.1	0.6	0.2	0.4
昭和 25~40 の平均	0.4	1.1	0.6	0.4
標準偏差	0.4	0.3	0.3	0.4

届いてきていることを表わしている。朽木村は昭和前後半とも一番数字が大きい。

XII 皮膚および疎性結合組織の疾患

蜂窩織炎・膿瘍などによる死亡であるため非常に少ない死因で、表30(前頁)に示した通り現在は死亡者がほとんどなくなっている。永源寺町にだけ男女とも、信楽町は女だけに残っているにすぎない。

XIII 骨および運動器の疾患

関節炎・筋炎・骨髄炎などによる死亡者中の割合は、古今東西を問わずあまり変化のない死因で表31の通りである。(次頁)

XIV 先天性奇形

表32(次頁)によると、なぜか男女とも永源寺

町に死亡者がいる。

XV 新生児の主要疾患

先天性弱質・生活力薄弱等による新生児疾患は表33の通りである。永源寺町は昭和27年から、朽木村は昭和30年から、信楽町は昭和27から、余呉村は昭和25年から死亡割合は減少している。昭和10年から昭和16年の平均をみると余呉村の少ないのが目立ち、昭和27年~昭和40年の平均をみると、朽木村の多いのが目立つ。昭和40年におい

表 33 死因別死亡率 (XV新生児疾患)

$$\frac{\text{XVによる死亡者数}}{\text{本籍人口}} \times 10万$$

	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4	資料なし	資料なし	資料なし	37.5
5				61.3
6				98.3
7				99.2
8				49.5
9				172.9
10				110.6
11				121.7
12				122.2
13				144.7
14		307.3		156.0
昭和 1		325.5		142.0
2		189.0		93.9
3	195.5	210.6		115.6
4	290.1	305.1		128.6
5	201.0	266.7		174.3
6	147.4	150.8		161.3
7	223.5	93.2		80.0
8	291.4	298.2		91.5
9	272.3	222.9		113.7
10	200.1	147.0	228.2	90.7
11	191.2	108.9	167.7	101.8
12	190.8	198.8	198.1	67.5
13	216.0	126.1	196.9	134.3
14	192.0	217.1	178.4	89.9
15	182.4	145.1	133.0	134.6
16	173.4	181.2	144.8	33.8
17	?	?	?	?
18	?	?	?	?
19	?	?	?	?
20	?	?	?	?
21	?	?	?	?
22	?	?	?	?
23	72.7	270.1	?	77.9
24	159.7	107.4	?	109.8
25	158.2	173.6	?	65.4
26	125.4	137.4	?	64.5
27	86.5	234.2	59.3	64.5
28	78.3	165.9	93.4	53.3
29	85.7	130.7	75.7	42.5
30	37.8	44.9	63.5	10.6
31	38.4	44.9	28.8	31.7
32	33.6	50.2	30.3	84.4
33	30.6	33.4	54.3	10.5
34	30.8	33.4	36.2	42.1
35	31.0	66.7	24.2	10.5
36	15.5	33.4	42.5	42.2
37	15.6	33.4	0	42.4
38	7.8	16.7	24.4	32.1
39	8.2	33.5	30.7	10.7
40	15.7	101.0	6.1	0
昭和 10~16 の平均	192.3	160.6	178.2	93.2
標準偏差	12.4	36.6	30.5	33.1
昭和 27~40 の平均	38.3	73.0	40.7	34.1
標準偏差	26.7	60.9	25.1	23.1

表 31 XIII (骨および運動器の疾患) による死亡の割合

$$\frac{\text{XIIIによる死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$$

	男				女			
	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4~6				0				1.1
7~10				0				0.4
11~14		2.3		0		0		0.6
昭和 1~4	0	0		0.4	0	0		0
5~8	0	0		0.3	0	0		0
9~12	0.3	0.4	0.4	0.9	0.3	1.5	0.3	0.3
13~16	0.5	0.5	0.8	0.7	0.3	0	0.2	0.3
17~20	0.2	0.8	0.2	0	0.5	0.8	0.2	0
21~24	0.5	1.0	0.2	0	0	1.1	0.7	0
25~28	0.4	0	0	0	0	0	0	0.5
29~32	0.4	0	0.3	0	0	0.7	0	0
33~36	0.8	0.8	0.6	0	1.8	0.9	0	0.5
37~40	1.4	1.1	0.4	0	1.1	0	0.4	2.2
昭9~24 の平均	0.4	0.7	0.4	0.4	0.3	0.9	0.4	0.2
標準偏差	0.1	0.2	0.2	0.4	0.2	0.6	0.2	0.1
昭25~40 の平均	0.8	0.3	0.3	0	0.7	0.4	0.1	0.8
標準偏差	0.4	0.2	0.2	0	0.8	0.4	0.2	0.8

表 32 XIV (先天性奇形) による死亡の割合

$$\frac{\text{XIVによる死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$$

	男				女			
	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4~6				0				0
7~10				0.4				0.4
11~14		0		0		0		0
昭和 1~4	0	0		0.4	0	0.4		0
5~8	0.4	0		0	0.3	0		0
9~12	0.3	0.4	0	0	0.3	0	0	0
13~16	0	0	0	0	0	0	0	0
17~20	0.6	0	0	0	0.2	0	0	0
21~24	0.5	0	0	0	0	0	0	0
25~28	0.4	0	0	0	0.4	0	0	0
29~32	0.9	0	0	0	0.5	0	0	0
33~36	0	0	0	0	0.5	0	0	0
37~40	0	0	0	0	0	0	0	0
昭9~24 の平均	0.5	0.1	0	0	0.1	0	0	0
標準偏差	0.1	0.2	0	0	0.1	0	0	0
昭25~40 の平均	0.3	0	0	0	0.4	0	0	0
標準偏差	0.4	0	0	0	0.2	0	0	0

表35 死因別死亡率(XVI老衰および診断名不明確) $\frac{\text{XVIによる死亡者数}}{\text{本籍人口}} \times 100$

表34 XV(新生児疾患)による死亡の割合 $\frac{\text{XVによる死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$

[illegible]

	男	女
	永源町 板木村 信樂町 余興村	永源町 板木村 信樂町 余興村
大正 4~6		4.5
7~10		5.1
11~14	20.4	6.9
昭和 1~4	27.5 11.2	12.7 13.1
5~8	23.3 8.7	10.9 4.9
9~12	17.7 9.6	12.3 7.7
13~16	11.8 8.3	10.2 10.9
17~20	6.9 7.9	6.7 10.3
21~24	8.4 11.0	6.6 11.7
25~28	9.7 10.4	11.2 17.5
29~32	7.7 9.9	4.8 4.7
33~36	4.4 4.2	1.4 4.9
37~40	1.4 3.2	1.7 9.0
昭和 9~24 の平均	11.2 9.2	9.0 10.3
標準偏差	4.2 1.2	2.4 1.5
25~40 の平均	5.8 6.1	4.8 9.0
標準偏差	3.2 3.2	3.9 5.2

表 36 XVI (老衰および診断名不明確) による死亡の割合 $\frac{\text{XVIによる死亡者数}}{\text{死亡者総数}} \times 100$

	男				女			
	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村	永源寺町	朽木村	信楽町	余呉村
大正 4~6				3.6				6.2
7~10				6.2				7.9
11~14		18.2		7.8		16.3		5.1
昭和 1~4	4.1	14.2		6.1	13.1	15.9		11.9
5~8	9.7	18.3		4.1	19.3	17.7		15.7
9~12	15.6	7.8	8.4	12.2	18.8	18.1	10.7	13.2
13~16	14.6	11.2	8.7	16.1	18.3	16.9	8.4	14.7
17~20	10.3	12.3	8.8	11.9	15.9	17.5	13.9	17.3
21~24	7.9	18.0	9.7	9.9	15.1	24.1	11.1	14.3
25~28	13.6	21.5	9.1	7.4	12.3	15.5	10.3	12.5
29~32	13.2	23.4	11.3	12.1	20.8	30.2	17.2	20.2
33~36	14.3	16.8	14.3	9.8	14.8	30.6	20.0	12.2
37~40	5.2	12.8	14.8	8.0	14.4	21.3	22.5	3.7
昭 9~24 の平均	12.1	12.3	8.9	12.5	17.0	19.2	11.3	14.9
標準偏差	3.1	3.7	0.5	2.2	1.6	2.9	2.0	1.5
昭 25~40 の平均	11.6	18.6	12.4	9.3	15.6	24.4	17.5	12.2
標準偏差	3.7	4.1	2.3	1.8	3.2	6.3	4.6	5.8

図15 XVI (老衰および診断名不明確) の年齢層別死亡の割合

て、余呉村がこの死因による新生児死亡をゼロにまでもつてきたのは、村の保健衛生に関する努力の賜といえよう。(第3報に詳述)

表34は、死亡者総数中のこの死因による死亡の割合であるが、経年的に減少しているのがわかる。昭和37年~40年において、やはり朽木村は高率で問題である。(第3報に詳述)

XVI 症状、老衰および診断名不明確の状態

老衰・心臓まひなどの死亡率を表35でみると、年々減少していく傾向だが、信楽町ではむしろ増加している。昭和10~16年の平均をみると、信楽町が他の町村に比べて低いのが著しい。昭和27年~40年においては、朽木村の平均が高率である。

死亡者との割合を示す表36では、年代と共に相対的に減少しているのは永源寺町と余呉村で、朽木村・信楽町は増加を示している。

表37でみると70才以上が圧倒的に多く、時代別に観察しても、あまり変わらないが、後半にいくぶん高くなってきている。

これをグラフにした図15でもうかがえるが、信楽町の昭和初期~15年の0才および1~4才が高

表 37 XVI (老衰および診断名不明確) の年令層別死亡の割合

$$\frac{\text{その年令層のXVIの死亡者数}}{\text{XVIによる死亡者数}} \times 100$$
[illegible]

表38 死因別死亡率(XVII事故および中毒)

$$\frac{\text{XVIIによる死者数}}{\text{本籍人口}} \times 10 \text{万}$$
[illegible]

表 40 XVII (事故および中毒) の年令層別死亡の割合

その年令層のXVIIの死亡者数
XVIIによる死亡者数 $\times 100$

性別	町名	年代	年令層別																
			0	1	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	
男	永壽町	昭和3-15	0	1	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	
	永壽町	昭和10-24	3	4	9	14	19	24	29	34	39	44	49	54	59	64	69	74	
	永壽町	昭和25-40	1	1	6	3	4	2	3	6	8	22	8	5	7	1	1	3	
	永壽町	大正14-昭和5	7	7	15	4	11	5	3	9	7	7	0	19	2	7	3	9	
	永壽町	昭和16-24	0	0	26	2	5	3	0	10	5	5	3	10	5	5	3	5	
女	永壽町	昭和25-40	12	2	6	1	6	1	2	0	10	2	12	2	6	1	12	2	
	永壽町	昭和10-15	4	0	0	4	0	16	0	8	0	4	0	4	0	16	0	12	
	永壽町	昭和16-24	6	1	14	3	4	1	6	1	4	1	8	2	2	0	8	2	
	永壽町	昭和25-40	1	6	4	9	6	6	9	9	5	7	12	3	8	2	9	0	
	永壽町	大正4-昭和14	0	9	7	3	2	3	2	9	7	16	1	9	7	12	9	3	
男	余呉村	昭和1-15	0	5	8	3	9	0	5	8	9	6	3	9	7	7	9	6	
	余呉村	昭和16-24	0	3	7	3	7	3	7	11	1	0	14	8	3	7	7	4	
	余呉村	昭和25-40	1	6	8	0	1	6	11	1	12	7	6	7	1	6	8	0	
	余呉村	昭和3-15	10	0	10	0	6	7	0	10	0	3	3	3	3	0	6	7	
	余呉村	昭和16-24	8	7	17	4	8	7	0	0	17	4	4	4	0	0	4	4	
女	余呉村	昭和25-40	0	7	7	3	9	0	5	8	9	6	3	9	7	7	1	9	
	余呉村	大正14-昭和15	14	3	28	6	0	0	0	0	0	0	0	14	3	28	6	0	
	余呉村	昭和16-24	0	11	1	33	3	0	0	11	1	11	1	1	0	11	1	0	
	余呉村	昭和25-40	4	0	20	0	4	0	0	8	0	4	0	4	0	8	0	4	
	余呉村	昭和10-15	0	11	8	0	0	5	9	11	8	0	5	9	5	9	0	5	
男	信楽町	昭和16-24	0	0	10	0	5	0	5	0	10	0	0	10	0	0	5	0	
	信楽町	昭和25-40	1	2	15	9	3	7	3	7	6	1	13	4	11	1	8	5	
	信楽町	大正4-昭和14	13	3	6	7	0	0	6	7	0	0	13	3	0	0	6	7	
	信楽町	昭和1-15	0	28	0	0	4	0	8	0	8	0	12	0	8	0	0	20	
	信楽町	昭和16-24	13	3	26	6	7	0	6	7	6	7	6	7	0	0	6	7	
女	信楽町	昭和25-40	3	6	14	3	3	6	7	1	10	7	14	3	7	1	0	3	
	信楽町	大正4-昭和14	13	3	6	7	0	0	6	7	0	0	13	3	0	0	6	7	
男	余呉村	昭和1-15	0	28	0	0	4	0	8	0	8	0	12	0	8	0	0	20	
	余呉村	昭和16-24	13	3	26	6	7	0	6	7	6	7	6	7	0	0	6	7	
女	余呉村	昭和25-40	3	6	14	3	3	6	7	1	10	7	14	3	7	1	0	3	
	余呉村	大正4-昭和14	13	3	6	7	0	0	6	7	0	0	13	3	0	0	6	7	

表 39 XVII (事故および中毒) による死亡の割合

XVIIによる死亡者数
死亡者総数 $\times 100$

		男				女			
		永源町	朽木村	信楽町	余呉村	永源町	朽木村	信楽町	余呉村
男	昭和4-6				6.3				2.2
	昭和7-10				6.7				1.8
	昭和11-14		2.3		4.6		0		1.2
	昭和14-昭和16	3.1	2.0		3.7	5.1	0		2.7
	昭和17-20	3.5	3.7		5.6	2.9	1.4		1.5
女	昭和9-12	4.9	3.5	2.4	5.9	1.7	0.5	2.5	2.5
	昭和13-16	4.3	2.4	3.9	2.9	2.1	2.1	2.8	2.2
	昭和17-20	4.5	3.9	2.8	2.5	2.7	1.2	1.4	2.1
	昭和21-24	8.4	4.5	5.1	6.4	2.5	2.2	1.8	1.9
	昭和25-28	7.5	7.1	11.9	8.4	4.5	4.7	11.5	7.6
男	昭和29-32	9.8	8.1	7.9	9.6	7.6	4.7	5.9	4.2
	昭和33-36	11.1	14.3	10.9	8.7	7.6	4.9	6.4	5.0
	昭和37-40	7.1	12.7	8.3	8.0	4.4	6.7	4.0	2.9
	昭和41-44	5.5	3.6	3.6	4.4	2.3	1.5	2.1	2.2
	昭和45-48	1.7	0.8	1.1	1.7	0.4	0.7	0.6	0.2
女	昭和49-52	8.9	10.6	9.8	8.7	6.3	5.3	7.0	4.9
	昭和53-56	1.6	2.1	1.7	0.6	1.6	0.8	2.8	1.7

図16 XVII(事故および中毒)の年齢層別死亡の割合
い。しかし老年期の疾患として、年々割合を増し
1~4才のピークを低くしている。

XVII 不慮の事故、中毒および暴力

交通事故・火傷・自殺等を含む死亡率は表38のようになるが、昭和10~16年平均では朽木村は少ない方であるが、年によってむらが多いようである。昭和27年以後は交通事故などによって上昇の死因である。信楽町の昭和28年の大きな数字は台風による山津波によるものである。

表39でみると、死亡者の中での割合も増加し、昭和9年~24年の平均よりも昭和25年~40年の方が2~3倍増である。また、男の方が女子よりも多いのも特徴である。

表40でみると、20才から24才が特に昭和25年以後増加している。特に女子の1~4才児が朽木村・余呉村で20%台の数字がみられるが、その原因が水死によるものが多く、親の不注意による事故と思われる。

図16において、この死因は1~4才児の事故死

と、20~24才の交通事故死、70才以上の事故死に山がきまってきつつあるし、これを全国的にみても、昭和38年から死亡順位の5位に不慮の事故があがってきているので、これについては対策を考えなければならない問題点である。

また、昭和16~24年のグラフで朽木村の5~9才が高率であるが、実人数は8人で、全体の死者数が少ないため百分率をとるとこんなになるのである。

ここで死因についての各論をおわり、次の総括において得られた結果をまとめるが、以上の分析によって、4カ町村について、辺境にある農山村という共通点による特有な死亡動向がみられたが、また一方その中において、それぞれの町村の社会的性格・生活様式による特徴もよみとることができたと考える。

総括ならびに結論

以上各死因についての分析から得られた結果は、次のとおりである。

1) 死因別順位は昭和24年ごろまでは、分類IX消化器系疾患が1位といういわゆる農村型であった。中でも余呉村が特に顕著で、朽木村・信楽町とつづき、永源寺町は全国平均型に割合近かった。昭和25年以後はどの町村も全国平均型に近づきつつあるが、IXが6位以下に落ちるのは、4カ町村とも昭和40年以降とおそい。

2) 永源寺町は昭和の初期から、肺炎や気管支炎による死亡者が4カ町村中最も少ない。しかし0才の肺炎による死亡者は多いようである。消化器系疾患が昭和25年以後多くなってきている。老衰による老人の死亡は昭和24年までは多かった。一方、分類VI神経系および感覚器の疾患による死亡は、戦後他町村が減少しているのにむしろ増加しつつある。

3) 朽木村は、山仕事専門者が多いということによってか、特に他の3カ町村と色々の面で違った傾向がみられる。癌による死亡者が特に少なく死亡率は戦前に比べて戦後の方が少ない。また、分類X性尿器の疾患による死亡も昔から少ない。その半面分類I伝染病および寄生虫病は戦前少なかったのに、戦後はこれによる死亡がふえて、死

亡率は4カ町村のうちで1位になってしまった。最近になっても脚気による死亡者があり、これも他町村にはみられない著しい特徴である。これは米の不足から、昔から主食は他の村から買入れ、重労働のエネルギー源として白米食を摂っていた家庭が多かったためではないかと思われる。動脈硬化・高血圧・心不全などの病気は昔から少ない。消化器系疾患は昭和24年ごろまでは多く、これによる死亡者も多かった。この村の一番の問題は新生児疾患が多く、特に昔から育てにくいとされている男児よりも女児の死亡率が高いということである。このことが、平均寿命に関する統計などに不利な点となったが、村の保健衛生上の問題として改善しなければならない。最近老衰による死亡がふえ、また昭和24年までは、子供の事故死も多かった。

4) 信楽村は、分類Ⅰの結核、Ⅷの呼吸器系疾患が死因別死亡順位で、2位・3位を占めることが多く、これは窯業の盛んなこの地方の風土性に基づくものと思われる。このことは、教室の不破前助教授²⁾が指摘したように、窯業地帯が結核罹患率が高いという結果と同じであり興味がある。特に結核が女よりも男に多い点もうかがわれる。分類Ⅶ循環器系の疾患による死亡は、戦前は多い方であったが、戦後は他町村は増加を示しているのに、この町だけは死亡率が減少している。消化器系疾患で死ぬ割合が、戦後は男女とも4カ町村中1位になった。

5) 余呉村は冬裏作ができず、農山村の割に労働衛生管理が昔からされていたせいか、死亡動向もこの村独特の特徴がある。分類Ⅸ消化器系疾患が死因別死亡順位でいつも1位を独占したこと、分類Ⅲ物質代謝などの疾患による死亡の割合が少ないこと、分類Ⅵ神経系および感覚器の疾患、分

類Ⅶ循環器系の疾患、分類Ⅹ性尿器の疾患による死亡率は全期間を通じて4カ町村中一番高いなどの特徴がある。戦後いち早く社会進展に呼応して生活改善が行われ、医療施設もとのい、寿命はますますのびている。そして死因別死亡順位の型も全国平均型に4カ町村中では一番早く近づいている。特に昔から衛生知識のよく普及した村で、新生児疾患での死亡が昭和40年にゼロの成績に達している。

6) 時代が下がると共に死亡率がふえ、また全死亡者の中に占める割合もふえた死因は、分類Ⅱ新生物、Ⅶ循環器系の疾患、ⅩⅦ事故死であるが、Ⅶでは信楽町が、Ⅱでは朽木村は死亡率がへって例外的であると考ええる。

7) 時代が下がると共に死亡率は減少したが、全死亡者の中に占める割合がふえた死因は、Ⅵ神経系および感覚器の疾患であるが、永源寺町のみは例外であるといえる。

8) 死亡率も減り全死亡者の中に占める割合も減った死因は、分類Ⅰ伝染病および寄生虫病、Ⅷ呼吸器系の疾患、Ⅸ消化器系疾患、Ⅹ性尿器の疾患およびⅩⅤ新生児の主要疾患である。

9) 分類ⅩⅥ老衰および診断名不明確の状態は、朽木村・信楽町の場合は上記の7)と同様であるが、永源寺町の余呉村の場合は8)と同様である。

なお、稿を終るに当り、御懇篤なる御指導と御校閲を賜った恩師永田捷一教授に衷心より感謝の意を表します。

文 献

- 1) 厚生統計協会：疾病・傷害および死因統計分類提要，第2巻（1968）
- 2) 不破博徳他13名：学童の結核管理に関する衛生学的研究Ⅰ，岐阜医紀，9，65（1961）